

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500675
法人名	(有)介護センター 田中
事業所名	グループホーム 渚園
所在地 (電話番号)	津市柳山津興382番地の4 (電話) 059-227-7737
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 12 日(金)

【情報提供票より】 (H20年8月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	第1 平成 12 年 11 月 3 日	第2 平成 15 年 11 月 3 日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	11 人	常勤 11人, 非常勤 0人, 常勤換算 11人

(2)建物概要

建物構造	第1ユニット 鉄骨 造り	第2ユニット 木造平屋 造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(第1)45,000 (第2)60,000	その他の経費(月額)	6,000 円~
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,700円		

(4)利用者の概要(8 月 28 日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	10 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.2 歳	最低 67 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	はぎの医院 永井病院 つつじヶ丘歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに伊勢湾海洋スポーツセンター、海浜公園があり飲食店も点在している。事業所の敷地は広く車道に面しているが比較的静かである。平成12年11月に病棟を改修して開設、その後平成15年に増設した2ユニットのグループホームである。玄関は各々に分かれているが中庭を挟んだ建物は廊下で行き来が出来る。いずれも室内は広く明るい換気良好で清掃も行き届いている。家具調度品も家庭的、ソファや椅子も程よく置かれ畳コーナーも設けられている。壁に掲げられた絵画、飾り棚の生け花にも心が癒され、落ち着いて暮らせるよう随所に工夫が見られた。開設時からの職員が多く管理者のリーダーシップのもとに豊富な経験と知識で利用者主体に熱心な支援をしている。医療との連携も確立され健康面でも安心して暮らせるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題はない。常に職員は問題意識を持ち互いに話し合いながら利用者主体の支援をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義をよく理解している。今回の自己評価についても全員で検討し管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	18年9月に開始、現在9回目を実施している。最初はメンバーの紹介、挨拶、グループホームの状況説明であったが回を重ねる度ごとに漸次意見も増え内容も充実しつつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会頻度も高く職員と話す機会が多いこと、また毎年家族同伴で一泊旅行を実施しており家族と職員が何でも話し合える関係ができている。要望があれば即検討し対応している。室内にご意見箱を設置しているが今までに投函はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会、老人会に加入、地域行事にも参加している。また管理者を中心に高齢者の相談に乗ったり、近隣中学校の実習の受入れや保育園との交流など地域との連携を深めている。

2. 評価報告書

部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスへの位置づけに伴い開設時の「風と共に(自然)生きる」をサブタイトルにすえ替え、地域との関係性と役割を思い『老いても地域の中でゆったりと生活が出来るように共に支え合っていくこと』を理念としている。玄関カウンターのケースに入れ来訪者にも見やすく、分かりやすく示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員間によく浸透している。ミーティング等機会あるごとに確認し合い日々実践している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に加入、地域活動にも参加している。また管理者を中心に高齢者の相談に乗ったり近隣中学校の実習生の受け入れ、保育園との交流など地域との親交に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員とも評価の意義をよく理解している。常に問題意識を持ちながら利用者主体にサービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者、家族会、行政、事業所側役職員で構成され既に9回実施している。運営者はグループホームの地域への理解と支援を得るための貴重な機会であると考え積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は三重県グループホーム連絡協議会の会長でもあり公、自社の立場から機会あるごとに市の担当者とも情報の交換を行いサービスの質の向上に熱心に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に本人の状況を報告し同時に要望も聞きだすように努めている。(遠方の家族にはメールを活用)金銭についても出納帳のコピーを渡し確認をして貰っている。一般的なことは毎月の『渚だより』にて伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全体に家族の来訪・面会頻度は高く職員と話す機会が多いこと。また毎年1回家族同伴で一泊旅行を実施しており、何でも話し合える関係が出来ている。要望があれば即検討し対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動による利用者への影響度合いを良く理解している。退職者は比較的少ないが新しい職員が入った時にはきちんと紹介をして早く馴染んでもらえるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者は職員の質の確保、育成を重視して泊りも含めた外部研修にも順番に参加させている。受講後は内部研修を行い実践に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は三重県グループホーム連絡協議会会長でもあり、県下は勿論、地域の同業者との情報交換、相談ごと、勉強会等を通じサービスの質の向上に積極的な取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族によく説明をしたうえ事業所を見学してもらい、必要な利用者には体験入所も取り入れ徐々に雰囲気に馴染んでもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「利用者は人生の先輩」との考えを共有しながら色々な面で一緒に行動(食事の準備、後片付け、床の拭き掃除など)し、さりげない支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し一人ひとりの生活歴や暮らし方、趣味、嗜好等を把握。また家族に家族の思いと本人の思いを自筆で書いて貰っている。職員は日常の会話や利用者同士の会話、本人のしぐさの中からも思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時の本人家族の意見を基に計画担当者がミーティングで職員と共に検討し一人ひとりに合わせた計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月毎に見直しをしている。職員は常に日々の状況に気配りをし必要があれば、その都度見直すことにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩、買物は日常的に行ない、通院、美容院行き、故郷訪問など利用者の希望に応じた支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医の往診を受け全利用者の健康管理に努めている。緊急時の対応も確立している。4名についてはそれぞれかかりつけ医の協力も得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、家族、かかりつけ医と相談の上、出来る限り希望にそえる方向で対応している。現在該当者が(1名)あるが職員全員で温かく介助支援していて本人も非常に穏かな状況である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者への声かけは非常に穏かであり和やかな会話がされている。介護記録等個人情報の取り扱いも適切に行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	水彩画、生け花(元お花の先生)、テレビ連続ドラマの観賞、気の合った者同士の会話など、その場その場で職員はさりげない支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、包丁と、まな板を使い煮物の準備から配膳、後片付けまで一連の作業を利用者と職員とが一緒になって行なっている。また食事でも会話を交え楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	起床時間、朝食時間との関係、午前中に散歩に行くことなどから入浴は午後になっている。一日おきに沸しているが、入浴がない日にはシャワー、清拭によることもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれが生活歴を活かし包丁とまな板を使いながら食事の準備や後片付け、箒と雑巾を使っての拭き掃除、洗濯物たたみなど自然と役割が出来、職員と共に行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩(ヨットハーバー、公園)買物、天気の良い日は出来るだけ戸外へ出かける支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害をよく理解していて夜間以外は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者を交えた訓練は本人への精神的な影響を気遣っている。消防署の協力を得たのは2年前だが設備の点検は常に行なっている。災害時の対応マニュアルを作成して定期的に全職員で確認をしている。	○	様々な事態を想定して、手薄になる夜間においても慌てずに避難誘導が出来るように今一度全職員で話し合い確認される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは職員がカロリーと栄養バランスを考え季節の物、利用者の希望も取り入れながら工夫している。水分補給についても夜間はペットボトルを置くなど充分気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭では季節の草花を観賞、また室内は広いうえ天井も高く採光通風共に良好である。洋式の中にも使い勝手の良い畳スペースがある。木材を生かした食堂兼居間にはソファやテレビ、家庭的な家具が置かれ壁に絵画、飾り棚に生け花、そして入居者の作品も体裁よく掲示されているなど、ゆったりと居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット、エアコン、ベットは事業所で設置。利用者は各々使い慣れたタンス、机、趣味用品などを持ち込み、自分に合った工夫をしている。配偶者の遺影を置いている利用者も見られた。		